編集者：アンドレア林康政

年間第三十三主日（A 年主日の福音を中心とする「霊的な読書」）

(一) 聖書朗読：マタイ 22：34-40

天の国は主人が自分の財産を僕たちに預けたようである。一人に五タラントン、一人には二タラントン、もう一人には一タラントンを預けて旅に出かけた。五タラントン預かった者も、二タラントン預かった者も、商売をして儲けた。主人は彼らに言った。「忠実な良い僕だ。多くの者を管理させよう。主人と一緒に喜んでくれ。」しかし、一タラントン預かった者は、主人の厳しさに恐ろしくなり、出て行って穴を堀り、主人の金を隠しておいた。主人は彼に言った。「怠け者の悪い僕だ。だれでも持っていない人は、持っている者までも、取り上げられる。外の暗闇に追い出せ。そこで泣きわめいて歯ぎしりするだろう。」

(二)カテキズムの響き（カトリック教会のカテキズムの番号、主に＃1036、1936-1937、1720、2683； 他に＃678-679、1023-1029、1038-1041；YOUCAT #157、321、331-312）

新約聖書は、神が人間を招いておられる至福の特徴を表すために、様々な表現を用いています。神の国の到来、神を見ること、主の喜びに入ること、神の安息に与ることなどがそうです。最後の審判は至福の命か、それとも永遠の罰かの判決にあります。この判決は、主イエスが生者と死者の裁き手として再臨されるとき、ご自分の前に一堂に集められた正しい者と正しくない者に対して、天の至福にいること、もしくは地獄において永遠の苦しみを受けることを宣告されます。

世の終わりにおける最後の審判についての教えは、責任遂行への呼びかけであると同時に、回心を促す招きでもあります。怠惰な悪い僕のように、嘆きと歯がみのある外の闇の中へ、離れ去るように命じられることのないよう、警戒しなければなりません。最後の審判では、各自がそれぞれの生涯中に行ったよいこと、怠ったこと、神の恵みとタラントンをよく利用するかどうかが明らかにされます。人間は生まれた時には、人々の相違は、年齢、身体的能力、知的、倫理的能力、各自の経験した交流、富の配分などのタラントンは、同等に配分されているのではないが、以上の相違は神の計画に基づくもので、神は各自が自分に必要とする人々にその恩恵を分かつことを望んでおられるのです。相違は寛容、好意、分かち合いを促し、しばしばこれを義務づけます。今、私たちに先立って神の国に入った証人たち、多くの者の管理を委ねられて、生活の模範や著書をもって、捧げている祈りを通して、世の人々を主の喜びに導いています。

(三) カテキズムの学び （『コンペンディウム』カトリック･カテキズム要約の番号）

＃133-135　信仰宣言において、「主キリストは生者と死者を裁くために来られます」という意味。

＃413　神はおのおの自分が必要とするものを他の人から受け、特別なテラントンを持つ人はそれを他の人々と分かち合うよう望んでおられます。

最後の祈り：当主日の集会祈願をご利用ください。